

A-001「關雎」(關關たる雎鳩は河之洲に在り) 『詩經』国風 周南

「ミサゴが鳴いている」

AKY訳

ミサゴがツガイで鳴いている

河の中州にたたずんで

あの娘あでやか、花嫁候補

長短乱れて茂ったアサザ

右に左に揺れている

あの娘あでやか、お嫁に欲しい

願い叶わず 若者悩む

寝ても覚めても悩みはつきぬ

悩み悩んで 寝返りばかり

(……………)

長短乱れて茂ったアサザ

右に左につまみとる

あでやかあの娘と 和す琴と瑟(こと)

長短乱れて茂ったアサザ

右に左にむしりとる

あでやかあの娘と 打つ鐘鼓(かねたいこ)

(原詩)

(読み下し文)

關關雎鳩

在河之洲

窈窕淑女

君子好逑

參差荇菜

左右流之

窈窕淑女

寤寐求之

求之不得

寤寐思服

悠哉悠哉

輾轉反側

參差荇菜

左右采之

窈窕淑女

琴瑟友之

參差荇菜

左右芼之

窈窕淑女

鍾鼓樂之

關關(かんかん)たる雎鳩(しよきゆう)は

河之洲(かわのす)に在り

窈窕(ようちよう)たる淑女は

君子の好逑(こうきゆう)

參差(しんし)たる荇菜(こうさい)は

左右に之をとる

窈窕たる淑女は

寤寐に之を求む

之を求めて得ざれば

寤寐(ごび)に思服す

悠なるかな悠なるかな

輾轉(てんてん)反側す

參差たる荇菜は

左右に之をとる

窈窕たる淑女は

琴瑟(きんしつ)之を友(した)しむ

參差たる荇菜は

左右に之を芼(えら)ぶ

窈窕たる淑女は

鍾鼓(しょうこ)之を樂しむ

この詩は、菜摘み歌で、大勢の人(おそらく女性)が、一緒に或いは、掛け合いのように歌って、リズムを合わせて菜を摘んだのだと思います。

男女が親しくなっていく様子を歌ったフレーズが主題で、アサザを取るフレーズと掛け合いになっています。

前半の第一節と第三節は、後半の第四節、第五節と以降と形式・内容が少し違います。雉鳩という鳥がつかいで川の洲にいるところから、若者がつかいを求め悩んでいる様子を表わしています。後半では、願いがかなって仲睦まじくなっているようです。

そして形式の違う前半の中にあつて後半の各節と形式の似た第二節が前後をつないでいます。

ただ、この詩では、思い悩んでいるときと、願いがかなつてからが、やや唐突な感じもします。私の訳では、時間の経過を示す意味で前後の間に「(･･････････････････)」を入れてみました。カラオケなら、「長めの間奏」というところでしょうか。

### 「使われている言葉について」

- 關關(かんかん)、鳥の鳴く声の擬声語、比較的穏やかな鳥の鳴き声。

● 雉鳩(しよきゆう)、通常ミサゴと訳されている。しかし、白川静さんは、ミサゴは、海岸に住んでいて内陸には見られないとし、また、猛禽類であつて、窈窕たる淑女とは、結びつきにくいとして、「みやこどり」のような川鳥であろうといっている。一方、内陸でも、大きな河や湖沼に住むとするものもあり、猛禽類とはいえ、胴、足、羽の裏は白く、長い羽を広げて空を飛ぶ姿は、優美でもある。夫婦仲がよく、夫婦共同で巢を作つたり、卵を温めたりもするという。この辺は、「君子の好逮」にふさわしいかもしれない。「ちつちつ」とか、「びよびよ」と鳴くというが、「關關」という表現がそれにふさわしいかどうか、私には、わからない。

● 窈窕(ようちよう)、あでやかで美しい。艶めかしい意味を含んでいる(白川静、平凡社「字統」)。

● 君子の好逮(こうきゆう)、立派な男のよい配偶者。

● 參差(しんし)、長短ふぞろいの状態。

● 寤寐(ごび)、ゆめうつ。寤は、覚める。寐は、寝る。

● 思服(しふく)、思う。心にとどめる。

● 悠(ゆう)、憂い思う。心配する。

● 苜蓿(こうさい)、日本名「アサザ」、ハナジユンサイともいう。アサザ属ミツガシワ科。日本・朝鮮・中国(全土)をはじめ、ユーラシアの温帯に広く分布する。漢方では、全草を苜蓿と呼び、薬用にす

る。また食用にもなる。米を加えて煮たおじや(糝)は、江南の名菜。水辺で採る蔬菜としては高級品とされている(嶋田英誠編「跡見群芳譜」巻五野草譜より)。

● 琴瑟(きんじつ)、琴は、五弦或は七弦、瑟は二十五弦の弦楽器。因みに日本の十三弦琴は箏という。

● 流、流れる、行く、仲間などの意だが、白川静さんは、摻が本字であろうという(詩経「国風」)。摻(びよう)は、求む、摘み取るの意。しかし、私は、流れの中で左右に揺れてなかなか摘めない、求めて得られない様として流をとった。

● 采(さい)は、(木の実などを)もぎ取る、苳(もう)は、草を抜き取る。流、采、苳と「寤寐求之」、「琴瑟友之」、「鍾鼓樂之」への変化で、想い求めた配偶者を得て、仲睦まじくなる様を表している。